

Box 1:15

Japanese-American group meeting on building plans in Japanese
[in Oakland?]

1927

2002/353

王府佛教會の沿革並に一九二七年王府會堂
建築に至るまでの發展経路及びその發展に尽
する主なる信徒世話人

同郡出身者、原田猪太郎（長五郎氏父）が夫人の法要を営むため、一九〇二年二月、

胞が相集まり糸島話合なるものを組織し、毎月一回水月呼を招いてウエブスター街

のため、西島覺了師を招いて法話会を續けてゐたが、去年求道者の間に仏教團設立の

池田貫道
 所用好親
 山崎辰雄
 田原富春
 岡倉一雄
 村上
 帝亮
 印は死亡時國消息不明者
 以下之に準ず

傳教五年會を創出し、毎月一回桑港より紀南キナン教使の出張を求めて説教をき

外、更に毎日曜日には演説会を開いたり英語夜學校の開設、米人と邦人との通訳の

かくして仏教青年会の目覚ましい発展に伴ひ、一方には仏教婦人会の設立の機も熟

して、一九〇四年三月二十八日仏教婦人会總會を閉催してその成立を見、同年七月十

英語學校と併立して日本學校を創出した。

爾來、修道、修養の両面を兼ねて惠念その充實發展に努力した結果、會員も増加し

桑港より月一回の出張法詔に満足せず、かたぐ
茲に主佐駐在南教使招聘の議がま

とまつて、一九〇五年正月早々に藤井黙斎師を迎へた。(初代用教使)

然して同年五月に會堂を五街三〇五に移轉し、翌年九月に王府仏教青年會が佛教會と改稱され、仏教はその附屬団体として陸王會の名称のもとに新たに発足した。同年十月には藤井師を中心として、大街七一の土地家屋を購入したが、一九一二年三月（羽栗行道師在任時代）には購入せる土地家屋を他人に貸して更に大街三一三番地に移轉する盛況となった。

願れば、仏教會創立時代より羽栗師時代に至る十数年の間、仏陀の慈悲を播種し培養した一般信徒の念力を忘れるはならないが、中にも、それら信徒の中心となって寺内の発展に尽力した人々に、上記の外に、

増田寅三郎、谷実雄、渡辺要太郎、源次作。
山下金五郎、平井ハ十二、橋清吾三郎、森永力吉。
三上平作、高田小市、秋吉十太郎、福田元治郎。
大塚松太郎、中澤茂十郎。（順序不同）

等の諸氏があった。

降って一九一六年四月（秋田洪範師時代）には大街二一三に王府中學校と仏教英學校とが開設され、更に同年六月には王府公園と幼稚園、七月末には小聖部を設けるなど急進度の進展振りを示したが、その背後の力となって尽力した上記の人々の他に新たに、

大川團三郎、根石貞一、叶伊太郎、馬場完。

等の諸氏が仏教會の中心に加はって活躍した。

その後、水谷道後師が赴任され、着々と大法宣布に尽力中であつたが、師の發言に依つて新金堂建築の議が起つて来た。然しその先決問題として大街とジマクソン街の角に土地を家屋しろとし購入する必要にせまらる。仏教會モアリス街より移轉することとなつたが、その購入資金捻出のため、王仏信徒は協力その募財にとりかかった。その間、水谷師が帰國の意思を發表されたために、後任として波多泰田教師を迎へることとなり、波多師亦その聖業を継承して募財に努力されたが、師を轉け

て募財運動に尽力された信徒は上記のほかは、

×長井卯兵衛。×小西惣吉。×横溝源太郎。×栢野源吉。
×鳥山平藏。×士口目音一。×小矢野某。×花岡某。
等、諸氏があつた。
(順序不同)

かく信徒諸氏の努力によつて土地購入費拂込済となり、新会堂建築の氣運に向いたが、波多師の辞任、岩男憲之師の赴任等種々波瀾曲折の厂史を経ていよく新築に決定し、コオボレイションを作り、且又、

池田貫道、増田寅三郎両氏を顧問に、北垣末松氏を會計に、横溝元右衛門、山下金吾両氏を會計監査に選出し、

建築委員として、

×増田寅三郎。中島菊太郎。×横溝元右衛門。
谷実雄。中村正太郎。(順序不同)の各氏を舉げ、

尚、ボードオブディレクターとして、

×増田寅三郎。中島菊太郎。吉岡只一。谷実雄。
×横溝元右衛門。北垣末松。×中重栄太郎。高田小市。
源次作。(順序不同)

の各氏を推し、そのほかは、

大川團三郎。根石貞一。廣田政治郎。秋吉十太郎。
×木村敬三郎。中重栄造。磯野貞一郎。川端重治。
×渡辺要太郎。×城戸明治。吉田宗作。藤井房吉。
×登坂一。×荒川松吉。×田守条次郎。住本順一。
×岡啓三郎。(順序不同)

等、諸氏が協力一致、よく建築運動の中心となつて、岩男師のほか、臨時に建築監督として招聘せる當時乙スノに駐在の山田将存師を輔けて、會堂建築の聖業に邁進した。

一九二七年となるや、王仏幹部の陣容ととのへ、

理事長 中島菊太郎。副理事長 ×横溝元右衛門。谷実雄。
幹事 ×田中菊藏。副幹事 大川團三郎。會計
北垣末松。中村正太郎。會計監査 木原嘉一郎。

桑田卯太郎。

の各氏と舉げたが、多年の宿願こゝに成就し、同年四月二十二日、家屋を大街一八一に移轉し、五月に起工式を行い、現在の大伽藍の落成をみたのが同年の十一月であつた。

かくて同月の五、六兩日に亘つて盛大なる落成式と遷仏慶讃法要が勤修されたが、参詣者は無慮 三千有余、近隣は勿論、遠くセバストポール、ベタルマ地方より多数の稚児行列の参加などがあり盛大なる法要であつた。

以上は会堂新築に至るまでの王仏に關する記録であつて、それより以後の厂史に就ては他日集録したいと思つて居ります。

(本村記)

推挙する水た感謝狀贈呈者の芳名 (順序不同)

池田貫道。谷実雄。渡辺要太郎。平井八十二。

木村 秀吉。高田小市。秋吉十太郎。福田元治郎。

北垣未松。中島菊太郎。中村正太郎。吉岡只一。

大川團三郎。根石貞一。廣田政治郎。中重栄造。

磯野貞一郎。川端重治。吉田栄作。藤井房吉。

住本順一。

以上三十一名

拝呈

陳有去る二十一日學園バーラーに於て開催せる座談会の皆様の見見を総合し尙
此米開教沿革史並に大川氏の當時の日記を参考してこの記録を作りましたが、尙違ひや
ら落着いたものもあると思ひますので御覧に供し、皆様の意見とき、増補訂正致し度
いと思ひますので御熟讀の上、来る十二日（先亡者供養食當日）に御意見と
おしより願ひ度く存じます。

尙その節、太法要の順準並に役割などし決定致し度いと存じます故、是非
御来寺願ひます。

感謝狀贈呈者に對して御意見があれば是非御申込み御快議願ひます。

敬呈

池田 敬